

2012年春闘ストライキアピール（案）

おかやまコープで働く仲間の皆さん

3月17日、2012年の春闘回答が理事会から示されました。今年の労組要求は、例年に比べて圧倒的に要求項目を絞り込み、より切実な要求として出していたものでしたが、その回答は定期昇給のみ、夏季一時金は大幅カット、その切実な諸要求についても全くのゼロ回答と極めて残念かつ納得できない回答となりました。

2月に開催した要求提出団交では、一時金に対する期待の声はもちろん、雇用を守ってほしい、毎年失効していく年次有給休暇が少しでも消化できるようにして欲しい、それが出来なくても積立制度を作って介護やボランティアで活用できる制度を作ってほしい、人時が不足し風邪も引けない、支援担当の増員で少しでもゆとりある体制を…といった切実な声が多く出されました。しかし、今回もこれらの声は理事会に届かず、理事会は、経営の厳しさをはじめ、来年度に見込まれる6億6千万円の減損処理や人件費を中心とする“構造問題”が解決していないというこれまでの主張を繰り返し、原資が必要となる改善については一切できないとの一点張りです。

おかやまコープで働く仲間の皆さん

私たちはこの間、理事会が主張するように、経営環境の厳しさや構造問題の解決の必要性については一定の理解も示し、我慢できるところは我慢を続けてきました。そして現場の仲間は、人時が不足する中で年休も取れず、あるいはサービス残業をも含む長時間労働の中で大奮闘し、11年度の到達は、それまで毎年10億単位で減らし続けてきた供給の減少に何とか歯止めをかけることができ、最終剰余も前年実績は下回ったものの、予算は大きく上回る結果を残せる見込みです。また、12年度スタートに向けたOCR発行人数も、ウェルカムキャンペーンの成功で4年2か月ぶりに前年実績を超過させるなどの成果も生み出してきました。こうした到達は、理事会自身が回答の中で感謝を述べている通り、まぎれもなく現場第一線で働く仲間たちのおかげではないでしょうか。

おかやまコープで働く仲間の皆さん

理事会は、それでもこうした仲間の頑張りに応えるのではなく、「減損処理のための積み立てが必要」「人件費構造の問題がある」との理由で、これまでと全く同じスタンスでの回答（定期昇給分を一時金削減で調整し、平均年収を維持する）をしてきました。その結果、正規の夏季一時金はついに1ヶ月を切り0.93ヶ月に、定時の一時金も0.64ヶ月、長期アルバイトへの寸志もゼロ回答となりました。

（前年実績正規1.01ヶ月、定時0.7ヶ月）

これが認められるのであれば、私たち働く者はいったい何をどうすればその賃金や一時金、諸条件の改善を図っていくことができるのでしょうか。減損会計問題は今に始まったことではありません。また人件費構造問題も同様です。理事会が言うように、新賃金・人事制度の早期導入を求めているなど、理事会も何も対策を取っていないとまでは言いません。しかし、そのいずれも私たち労働者にとっては痛みを伴う側面を持つものです。そうした経営の構造問題が、現在まで解決できないでいる経営の責任は問われてしかるべきではないでしょうか。

おかやまコープで働く仲間の皆さん

経営の立場に立てば、一時金の再回答や諸要求への前進回答は極めて難しい課題かもしれません。しかし、理事会も認めている2011年度に作り上げてきた私たち働く者の頑張りの成果に確信を持ち、一つでも二つでも要求の実現を信じて団結して奮闘しようではありませんか！

本日、スト行動に参加した皆さん、今後も引き続き交渉をおこないます。その交渉に参加できない皆さんの声を理事会に届けるため、春闘回答に対する皆さんの思いを一言カードに記入にして頂くようご協力をお願いいたします。共に頑張りましょう！

以上